

12 日本における「般若経」の受容とその歴史的展開

【全4回】／開催方法：



わたなべしやうご
渡辺章悟

東洋大学教授



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000（納入期限：9月11日）

【日程・時間】【全4回】 9月18日 10：30～12：00・13：30～15：00
9月25日 10：30～12：00・13：30～15：00

■受講に必要なもの
[テキスト] レジューメ配布

初期大乘経典を代表する般若経は数十種からなる多種多様な経典群である。その中で日本仏教において重視されたのは、般若心経、金剛般若経、般若理趣経、大般若波羅蜜多経などであろう。これらの漢訳「般若経群」は、すでに最初の正史である『日本書紀』から、六国史最後の『日本三代実録』の中に記録されている。このような歴史書の他に、文学や日記などの文学作品の中で、本経がどのように記録されているのか、つまり般若経の受容の実際を解説する。

さらに仏教関係の文献の中で扱われる本経の記述と、実際の般若経の文脈を読み解き、本経がどのように信仰されてきたのか、つまり般若経典と信仰のかかわりを根拠づけておきたい。特に、信仰された般若経の種類の特定、それぞれの読誦・書写・儀礼といった信仰形態の分析を通して、本経が受容された社会階層、時代、地域等を確定し、そこから読み取れる般若経信仰の実態を再び描き出しておく。

本講義の目的は、以上のような考察を通して、般若経信仰が日本仏教の中でどのように位置付けられるのかを明らかにすることである。

第一回目は歴史書や文学に見る般若経、第二回目は心経会、転読大般若会といった儀礼からみた般若経、また民俗信仰の中に生きる般若心経などについても解説する予定である。

なお本講座はzoomによるオンライン講義とするが、さまざまな画像を用いて般若経信仰の実際をよりよく理解できるように努めたい。

【参考書】

1. 書名：般若経大全 著者：渡辺章悟等編 出版社：春秋社 2015
2. 書名：般若経の思想 著者：渡辺章悟 出版社：春秋社 2019